

日銀神戸
支店長の
視点

別所昌樹氏



30歳代前半の3年間、フランクフルトに駐在しました。その時知ったのは、ドイツの温泉文化です。海外は水着で入る屋外プールの温泉が多いですが、ドイツには日本のような公衆共同浴場があります。フランクフルト近郊のヴィスバーデンや、フランス国境近くのバーデン・バーデンは、共同浴場を中心に宿や飲食店が並ぶ保養地です。

兵庫に来て数回、城崎温泉を訪れましたが、旅館内の大浴場ではなく外湯を中心に旅館やお店が並ぶ街を歩くと、ドイツを思い出します。湧出量の制約からの外湯中心だそうですが、限られた資源をみんなで活用しようとする先人の知恵を感じます。

今月は北但大震災から10

「共存共栄」の但馬、世界とつながる

0年ですが、区画整備や大谿川・道路の拡幅を含む創造的復興を城崎が成し遂げたのは「共存共栄」の精神のたまものでしょう。豊岡駅近くの豊岡復興建築群にも、協力してまちづくりを進めた地域の力の表れを感じます。

城崎でもう一つ感じることは、外国人観光客の多さです。昨年の豊岡市内の外国人延べ宿泊者数は約7万9千人。豊岡市の人口を上回る数字で、コロナ禍前の2019年より24%増えました。特に昨年10～12月はコロナ禍前の1.5倍近くでした。国・地域別ではコロナ禍前から台湾がトップですが、米国も増えており、昨年全体でコロナ禍前の2.7倍、10～12月には国・地域別で最多となりました。

但馬の国際的な一面は観光以外でも感じます。但馬から世界市場を狙う製造業のお話もよく聞きます。人口減少という課題はありますが、「共存共栄」の伝統が育んだ地域の力と、世界とつながる気概にあふれた但馬の未来を応援しています。